

報道関係 各位

2018年4月9日
株式会社日本レースプロモーション

4月21日(土)～22日(日)
「2018 NGK スパークプラグ 鈴鹿2&4 レース」
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、4月21日(土)～22日(日)の2日間、三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周: 5.807 km)において、「2018 NGK スパークプラグ 鈴鹿2&4 レース」2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦を開催いたします。

今シーズンの全日本スーパーフォーミュラ選手権はシリーズ全7戦を通して、決勝レース中に特質の異なる「ソフトタイヤ」と「ミディアムタイヤ」2種類のタイヤの使用が義務付けられる2スベックタイヤ制を導入します。また、今大会は、250Kmから300Kmにレース距離の延長が図られたことによって、タイヤだけではなく、ガソリン搭載量、気象条件などのレースファクターがより複雑に絡み、各チームのレース戦略の幅がさらに広がることで、戦略的でエキサイティングなレース展開が期待されます。

ドライバーラインナップとしては、昨年自身2度目のシリーズチャンピオンに輝いた石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)を始めチャンピオン経験者である 国本 雄資(ピーエムユーセルモインギング)、中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)、山本 尚貴(チーム・ムゲン)、昨年シーズンを盛り上げた、関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)、小林 可夢偉(カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)ら強豪がひしめく中、今年は4名のルーキーが参戦します。

昨シーズン欧州GP3選手権を戦い、シーズン3位(2勝)の実績を持ち、来シーズンのF1シート獲得を目指しFIA F2とのダブル参戦となる福住 仁嶺(チーム・ムゲン)や、FIA F2で戦ってきた松下 信治(ドコモチームダンディライアンレーシング)など海外で腕を磨いてきた若手凱旋組と、全日本F3選手権でチャンピオン獲得以降、耐久レースなどで経験を積み、現在スーパーGT 500クラスでも活躍する千代 勝正(ビーマックスレーシング・チーム)、海外からは2017年ワールドシリーズ・フォーミュラV8 3.5でシリーズチャンピオンを獲得、今シーズンはインディ 500をはじめインディカー・シリーズにも参戦するピエトロ・フィッティパルディ(ウオモ スノコ チーム ルマン)らの活躍に注目です。

さらに、スーパーGTやFIA世界耐久選手権などで活躍し、昨シーズンスーパーGTのタイトルを獲得した平川 亮(イトウチュウエネクス チーム インパル)、ジェームス・ロシター(バンテリン チーム トムス)など復帰組も加わり、これまで以上に熾烈なチャンピオン争いが予想されます。

そして、昨シーズンまでスーパーフォーミュラのアンバサダーとして様々なシーンで活動してきた本山 哲が、スーパーGTでコンビを組む千代 勝正を擁し、ビーマックスレーシング・チームの監督として参戦します。フォーミュラ・ニッポンで4度のシリーズチャンピオンを獲得した実績を持つ本山 哲が監督としてどのような采配をみせてくれるのかも見どころです。

今シーズンを占う意味で重要な一戦となる今大会にご注目ください。

このように話題の多い今シーズンの全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズを、より多くの方々に楽しんでいただく為、今年も無料全国放送のBSフジにて日曜の決勝レースを全戦放送いたします。また、J SPORTSによる予選・決勝中継も、これまで通り放送いたします。



写真左より:石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)、福住 仁嶺(チーム・ムゲン)、松下 信治(ドコモチームダンディライアンレーシング)、ピエトロ・フィッティパルディ(ウオモ スノコ チーム ルマン)、千代 勝正(ビーマックスレーシング・チーム)、本山 哲 ビーマックスレーシング・チーム監督

公式予選

Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

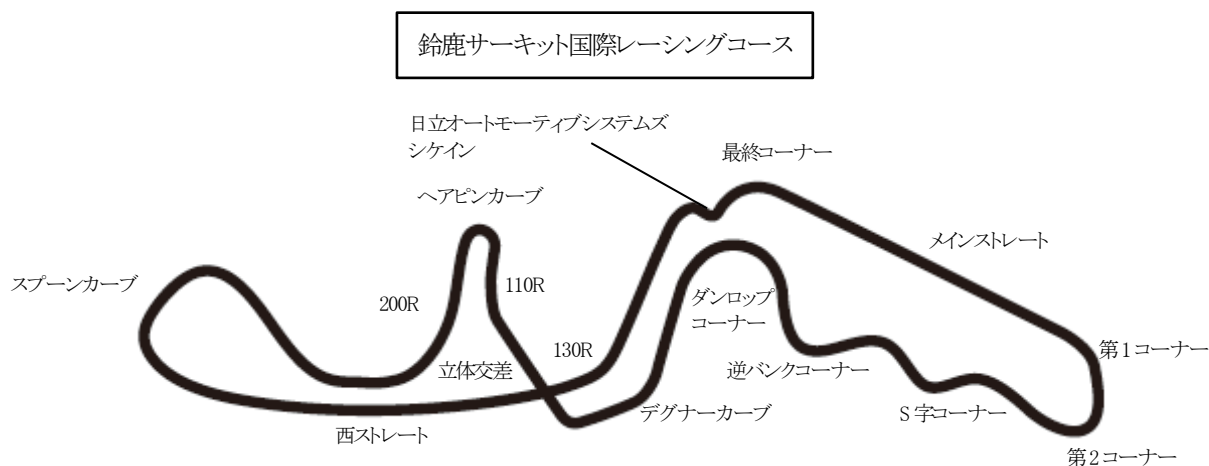
決勝レース

51周 1周:5.807km × 51周 = 296.157km

※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

鈴鹿サーキット国際レーシングコースについて

コースは東西に細長く、中間部分の立体交差をはさんで右回りと左回りが入れ替わる、世界的にも珍しい8の字形のレイアウトとなっています。コース全長は5.807kmで、日本のサーキットの中で最長です。コース幅は10～16m。コーナー数は18。最大高低差は52m。世界の多くのサーキットと比べ摩擦係数の高いアスファルト舗装です。土地の高低差と低速～高速コーナーのバランスが上手く配合されており、難易度が高く走り甲斐のあるコースとして評価されています。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第1戦 エントリーリスト

2018年4月9日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA R14A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA R14A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	1996/ 6/25	ブラジル	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA R14A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA R14A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA R14A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA R14A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

(車両: SF14、タイヤ: ヨコハマ)

—開催概要—

- 大会名称 : 2018 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース
2018 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
- 開催日程 : 2018年4月21日(土) 公式予選
2018年4月22日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周 5.807km)
- 主催 : グループ・オブ・スピードスポーツ(GSS)
鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
株式会社モビリティランド
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 後援 : スポーツ庁/観光庁/三重県/鈴鹿市/鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会/一般社団法人
鈴鹿市観光協会/鈴鹿商工会議所
- 同日開催 : 2018 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦
“コカ・コーラ”鈴鹿 8 耐 出場選抜レース 8 耐トリアウト 2nd ステージ
2018 年 全日本フォーミュラ3 選手権 第1戦 & 第2戦
2018 N-ONE OWNER'S CUP Rd.4

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2018スーパーフォーミュラ第1戦 鈴鹿』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。実況はピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫とした状況をレーシングドライバー 松田次生と、東(ひがし)美樹がピットレポートを行います。今大会は、解説者に鈴木亜久里を迎え、鋭くまたわかりやすく解説をします。

○実況 : ピエール北川

○解説 : 鈴木亜久里

○ピットリポーター : 松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間 : 2018年4月22日(日) 18:00~19:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《放送予定時間》

第1回 : 2018年 4月 7日(土) 23:00~23:55

2018年 4月 15日(日) 26:30~27:25(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは jsports.co.jp をご参照ください。

第1戦 鈴鹿サーキット

予選 2018年 4月21日(土) 15:30~ J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2018年 4月22日(日) 13:30~ J SPORTS 3 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

[superformulavideo-YouTube](https://www.youtube.com/user/superformulavideo)

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ
i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効) 遊園地モトピアパスポート1日券付
大人 : 4,000 円/中高生:4,000 円
小学生 : 3,100 円/3歳~未就学児:2,000 円
※ 4月20日(金)も入場可
- 前売観戦券(2日間有効) レース観戦のみ
大人 : 4,000 円/中高生:1,700 円
小学生 : 800 円/3歳~未就学児:600 円
※4月20日(金)も入場可
- グループチケット(2日間有効) 遊園地モトピアパスポート1日券付
3名 : 10,800 円 (1名あたり3,600 円)
4名 : 13,600 円 (1名あたり3,400 円)
5名 : 16,000 円 (1名あたり3,200 円)
※4月20日(金)も入場可
※前売りのみの販売
- パドックパス
中学生以上 : 7,200 円/3歳~小学生:2,000 円
※別途観戦券が必要です
※ホスピタリティラウンジ(ピットビル2階)にはご入場いただけません。
※前売で完売の場合、当日パドックパスは販売いたしません。

●ピットウォーク券

中学生以上：2,100円(各日)／3歳～小学生：無料

※別途観戦券が必要です

※前売で完売の場合、当日ピットウォーク券は販売いたしません

※ピットウォーク時に、傘、脚立のお持込はご遠慮ください

※小学生以下のお客様の入場には中学生以上の方の同伴が必要です

※お子様は迷子にご注意ください

※ピットウォークは、予告なく時間の変更・中止になる場合がございます

レースチケットのご案内 (<http://www.suzukacircuit.jp/superformula/ticket/index.html>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル

e-mail: media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:15名、海外:4カ国(ニュージーランド、ブラジル、イギリス、インド)4名

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	未定
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km ※1

※1: レース距離は暫定。

2018年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー:当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

●年間チャンピオンチーム

・経済産業大臣杯

●年間チャンピオンドライバー

・ドライバーズチャンピオンカップ

・観光庁長官杯

・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー

・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。